

開講科目名 / Course	小児看護学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	草野 淳子	
担当教員名 / Instructor	草野 淳子、足立 綾、堤 恒貴	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	小児の健康障害を保健・医療・教育など総合的な観点から捉え、紙上事例を通して看護上の問題を抽出し必要な看護ケアを行う。また、看護過程を展開して紙上事例を展開する。また、小児看護における主な看護援助の基本知識と技術を習得する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の健康障害に対して、小児と家族への看護を説明できる。 2. 小児の紙上事例について看護過程を展開できる。 3. 小児看護で用いる看護技術の理論を説明できる。 4. 小児看護で用いる看護技術の方法を説明できる。 	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 小児の看護過程 02. 小児事例の看護過程の展開（個人ワーク・グループワーク） 03. 小児と家族とのコミュニケーション 04. 小児の薬物療法と与薬 05. 小児の救急法（講義） 06. 小児のフィジカルアセスメント（講義） 07. 小児看護技術演習（1）バイタルサイン測定・救急法等 08. 小児看護技術演習（2）吸引、経管栄養等 09. 小児看護技術演習（3）静脈点滴固定法等 10. 急性期（川崎病）の事例検討 11. 慢性期（糖尿病）の小児の事例検討 12. 手術を必要とする小児の事例検討 13. 脳性麻痺児の事例検討 14. 小児看護学実習オリエンテーション・グループワーク 15. 病院実習ガイダンス・保育所実習オリエンテーション 	
その他の授業の工夫	前半は講義形式が中心である。後半は、技術演習を行い、アクティブラーニングを基本とする。高機能シミュレータやモデル人形などを多用して技術を実践的に指導する。視聴覚教材を活用して各技術項目の内容をイメージできるように工夫している。	
時間外学修	<p>事前学修：技術演習のレポート作成（3h）。</p> <p>事前学修：看護過程は個人ワークとグループワークによる課題提出（6h）。</p> <p>事後学修：課題の不足部分の学習、看護過程・小児看護技術の学習（3h）。</p> <p>技術習得については、実習室での練習を支援するので、教員への申し出により可能である。</p>	
評価方法と評価割合	技術演習のレポート（40%）と演習への積極的参加状況（10%）、看護過程のレポート（40%）と発表会への積極的参加状況（10%）を評価する。	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1,2]（医学書院）</p> <p>写真でわかる小児看護技術アドバンス（インターメディカ）</p>	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>草野淳子：産科病棟助産師、保健所保健師</p> <p>足立綾：病院小児科病棟看護師</p> <p>堤恒貴：病院小児科病棟看護師</p>

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	産科病棟(新生児看護、母子愛着形成)、保健所保健師(乳幼児健診、未熟児訪問)、病院小児科(病気を 持つ子どもの病態アセスメント、看護過程、技術)の経験を踏まえて、学生が臨地実習で実践できる ように、主な看護援助の基本知識と技術を教授する。	